

所属・資格 哲学科・教授

申請者氏名 小林 紀由

研究課題		社会変動と宗教における「神のかきかえ」について
報告の概要	研究目的 および 研究概要	<p>申請者は昨年、一昨年と宗教の正典類における神観の変換（「神のかきかえ」）と社会の政治的・経済的変動との関わりに関する研究を継続し、一昨年度はその基礎的研究の成果を日本宗教学会研究大会において報告したところである。同研究に関して受けたこの研究費は旧・新約聖書、クルアーン、古事記、日本書紀などの基礎研究文献の購入に主としてあてられ、基礎研究文献のレビューに研究の努力を重ねてきた。</p> <p>本年度の申請になる研究費は、とりわけ旧・新約聖書の研究文献のさらなる購入にあて、それらのレビューをすすめるとともに、経済環境の変化と「神のかきかえ」との関係に焦点をあて、研究を深化させたいと考えている。「神のかきかえ」に焦点をあてた正典研究という点がこの研究の継続的関心であり、特徴的な点であるものと認識している。</p>
	研究の結果	<p>本年度の申請になる研究においては、ローマ帝国支配下の経済格差の拡大のもと「貧しい者」を選択する神の、その選びの対象の書きかえをめぐり、新約聖書諸文書、とりわけ一般にルカ文書とされる「ルカ福音書」「使徒行伝」とに焦点をあて研究をすすめた。</p> <p>「貧しい者」を選択する神の表象は旧約聖書からみることができ、それは経済的困窮者を指す以上に選民としてのユダヤ人を選ぶ神としての記述に多く観察されるように思われる。ルカ文書はローマ帝国の諸民族に対する支配を意識化させる記述をちりばめながら、そのもとで経済的に困窮する者を選ぶ神に「神のかきかえ」を行っているように読める。</p> <p>今年度の研究においては、さらにルカ文書が日本語訳においてどのように翻訳されてきたかについても関心を持ち、明治以後の諸翻訳の比較を試みようともした。研究費はこのため「近代邦訳聖書集成」シリーズの購入にあてた。</p>
	研究の考察・反省	<p>ユダヤ・キリスト教系宗教においては、神の「選び」の対象が書きかえられてきた。だれを選ぶ神かという点で「神の書きかえ」がなされてきたといえよう。旧約聖書諸文書から新約聖書諸文書への変化は大きい、同様の書きかえは近代プロテスタンティズムの諸文書においてもみられるように思う。今後は、近代プロテスタンティズム諸文書の読みに研究の歩みをすすめるとともに、日本のプロテスタント諸派による聖書翻訳における「神の書きかえ」についても視野をひろげてゆきたい。</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>特になし。</p> <p>本年度は残念ながら体調不良と目の不調とが重なり、研究成果を公表するにいたらなかった。今後、これまでのこの課題に関する研究成果を検討し、まとめ、書籍等何らかの形で公にしたいと考えている。</p>
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	